

全釧路情報

2015.11.12 No.27 全釧路教職員組合

全道合研～多くの仲間と学び合いました!

11月7日(土)～8日(日)の全道合研には、延べ1349人が参加、レポート総数210本で、多くの仲間と学び合いました。全釧路からは総勢10名が参加しました。白糠支部で組合に新しく加入した先生も合研に参加しました。5本のテーマ討論、教育の夕べ、24の分科会で、子ども観、教育観について学び合い、私たちの立ち位置を改めて確認できた、充実した2日間となりました。

●記念講演～日本の「これから」について

教育の夕べでは、池澤夏樹さんが「原発、沖縄基地、憲法、教育～日本の将来、北海道の未来」と題して講演をしました。世界文学全集、日本文学全集の編集、また世界各地での生活経験の中から見えてきた日本、日本人について感じたことを語りました。

池澤さんは、権力によるメディアを通じた世論操作の問題、そして知識人もコントロールされようとしていることを指摘しました。「『ものを知っているもの』がものを言わないでどうする。」と言います。そしてフランスでの生活経験の中で、フランス国民にとってデモが必要なものであるという共通認識があり、国家公務員も「税金によって身分が保障されているのだから権力の行いに『ちゃんと批判を行う』ことが義務である」と例を挙げ、この国の知識人も「知識人としての義務」を考えるべきと語りました。

また、3.11の状況に打ちのめされた後、プレート境界上にある、地震や津波から逃れられない不運な状況にあると同時に、プレート境界上にあるために、南北に長く、豊かな作物、温泉にも恵まれたと、よい面、悪い面が表裏一体にあると考えることも出来ること、そして、戦後の沖縄を除けば他国による荒い支配を受けたことがない世界でも希有な国という歴史を含めて、「日本という国の歴史と国土に見てとれる良いところ、悪いところ」、そして「これから」を考えていきたいと語りました。



●分科会～充実した教科分科会

ここ数年、参加者数の減少に伴って、特に教科分科会で小中学校からのレポートが少ない状況が続いていました。昨年は国語、理科において小中学校からのレポートがないという事態になり、道教組でも、参加してよかったと思える有意義な合研、分科会のあり方を議論してきました。その過程で、教科分科会にレポーターを送り出そうという議論もあったことから、国語22本、数学16本、社会科19本、理科14本と、特に教科分科会に多数のレポートがあり、また小中学校からの一般参加者も多く、充実した討議となりました。一方、教科外の分科会ではレポート、参加者ともに減少したところもあり、分科会のあり方について、今後も議論は必要だと感じました。



●夜の交流会も、大いに盛り上がりました!元気が出ました!

また、夜の交流会は、高教組釧根支部、道南支部の先生と合同で、総勢16名の大交流会となりました。高教組釧根支部2名、白糠支部1名の新組合員の先生を囲んで、大いに盛り上がりました。白糠支部の先

